

ハイオ製薬企業モデルナが開発したコロナワクチンを国内に供給する。一方で、アストラゼネカ製のワクチンは接種後に血検ができる事例も確認されている。接種に向けた体制などは、さらに議論が必要となる。

2つのワクチンは厚生労働省の部会が海外でのデータを基に審査を簡略化する「特例承認」を了承しており、田村憲久厚労相が21日に製造販売を正式に承認した。

日本政府はモデルナ製で5000万回分（2500万人分）、アストラゼネカ製は1億2000万回分（6000

## コロナワクチン



ワクチン接種はコロナ流行の沈静化に欠かせない

種々の。2. 巨大の接種場には、モデルナ製は4週間、アストラゼネカ製は最大6カ月間、一般的に冷蔵でも最大30日間保管できる特徴がある。

モデルナ製ワクチンは同社が生産を委託するスイスの製薬会社の欧州拠点から航空便で日本に届く。6月までに4000万回分（2000万人分）、9月までにさらに1000万回分（500万人分）と、合計で2500万人分を供給する計画だ。

アストラゼネカ製は「ウイルスベクターワクチン」と呼

イナ1度、60度と超低温冷凍での輸送や保管が必要なのに、モデルナ製はセ氏マイナス20度で最大6カ月間、一般的に冷蔵でも最大30日間保管できる特徴がある。

トノイフロレンティン角ズル）が担う計画だ。

（瀧武里奈、赤間建哉）

オンラインでも円滑に議論できるようにする。2021年

1トフォンの画面に表示されたQRコードを専用のタブレット

滑に議論ができる」と説明する。（平岡大輝）

## 需給調整で価格安定

### 「競り任せ」避ける 流通量増加も期待

#### 1面から続く

豊洲市場（東京・江東）の仲卸、西岩商事（東京・江東）は2020年に野菜販売でタノムのサレヒスを導入し、1日でも忙しい深夜の注文の集計にかかる時間を1時間以上短くすることができた。

同社は飲食店などと約500品目を取引する。塩田勝良・野菜部代表は「どんなに取引先が増えても時間内に対応できるようになった」と話す。

今後は蓄積される取引データの分析し、経験が浅い担当者

でも入荷時期や需要を予測できるようにしたいと考えた。

タノムは「ライバルは昔ながらのアナログな慣習だ（川野秀哉代表）とする。利用する外食や小売りは全国1万店以上あり、与信管理や決済などの機能改善も進めて24年春

までに30万店を目指す。

市場流通のDXの意味は、手作業の労力軽減だけではなく、出荷情報やデジタルデータとして伝わり、商品の規格やパッケージなど詳細まで把握できるようになる。サプライチェーン全体の効率化が本質だ。データをもとに事前に需給を調整できれば、これまで競り任せだった価格も安定する。生産者も需要も取引しやすくなり、流通量が増える期待もある。

農水省の調査では18年度の中央卸売市場と地方卸売市場の数はそれぞれ64カ所と1025カ所、08年度から10年で約2割減少した。東京聖栄大の藤島氏は「市場の減少は国内生産力の低下につながる」と指摘する。出荷先を市場に依存する生産者が、市場がなくなることで廃業する恐れもあるためだ。市場流通のDXは緒に就いたばかり。慣習が壁となるが、多くのビジネスチャンスが眠っている。

## 総合